

SHALL WE PORT? Vol.6 (2009.7)

~国際交流・国際理解への旅~

CONTENTS

特集

新潟からアジアを知ろう

新潟県立大学教授 若月 章 氏

国際理解講座のお知らせ

国際交流インストラクター事業とは?

新潟国際情報大学准教授 長坂 格 氏

国際理解ワークショップを

受けてみませんか?

新潟から世界へ【新潟県立三条高等学校】

NIAインフォメーション

発行元 / 財団法人新潟県国際交流協会 Niigata International Association

特集

新潟からアジアを知ろう

昨年度の国際理解講座のコーディネーターをつとめていただき、また今年四月から開学した新潟県立大学の国際交流センター長である若月章教授に、国際理解について執筆いただきました。



アジアは今、目覚ましい経済発展によって国際的に注目され、21世紀世界の「経済成長センター」とまで言われています。例えば、2010年までの年間平均成長率は先進諸国が2%前後にとどまるのに対して、アジア全体では実に7%以上の維持が見込まれるであろうとの予測が語られ続けてきました。しかも昨年来の世界金融危機にも関わらず、2008年においても中国は概算で9.8%、ロシア6%そしてモンゴルにおいても8.9%台の経済成長率をキープしています。日本海の対岸各国の多くは、朝鮮半島の将来に懸念材料が残されているものの、今後においてもなお世界経済の成長の核となり続けることでしょう。

とはいえ、このアジア地域は民族、言語、歴史、文化、経済発展の度合い、政治体制など、いずれの面においても実に多様であり、「アジアは一つ」などとは語り得ない側面があるのも事実です。地域が抱える問題も多様であり、様々な視点から多角的に関心を

寄せる必要があるのではないのでしょうか。

この多様性の結果、環日本海地域の各国家間において不安定な要素が依然として残り、話し合いによる協調体制の構築になお時間がかかることは否めませんが、域内経済の相互依存度は確実に深まっています。域内の豊富な天然資源、進んだ科学技術と資本力、余剰労働力などの個々の特徴を更に生かすことができれば、経済交流や文化交流の面において、ヨーロッパ同様、相互補完関係を持ちうるに十分な素地を備えています。各国の努力が実を結び、経済発展水準、歴史文化の伝統、政治体制などの差異を超えて、協調的な発展を遂げることができれば、国際社会全体の今後に大きな影響を与えることとなるに違いありません。

さて、アジアが今、国際社会から注目を集めていることは先ほど述べた通りです。事実、毎日のようにテレビや新聞などでアジアの出来事が特集され、大きく紙面を飾っています。他方で、これだけアジアの情報が流入していながらも、実際にはその情報は表面的な内容が多く、朝鮮半島での核実験やミサイル発射問題などの政治的な混乱ぶりや急激な経済成長に伴う光と陰ばかりが喧伝されてはいないのでしょうか。私たちにとって、今こそ東アジアの魅力である豊穡な文学や文化、更に歴史の深みに対する理解が必要とされていると思います。そんな思いから、新潟県国際交流協会から私にコーディネーターの依頼があった平成20年度の国際理解講座では「アジアを深く知ろう!」と題して、ロシアのシベリア極東地域も含む北東アジアの歴史・民族と暮らし・文化・文学・言語等を切り口に、北東アジア社会の実相を学習することを主な狙いとして、構成させていただきました。講師は私も県立新潟女子短期大学国際教養学科の教員を中心に学内の教員に



中面へ特集が続きます

依頼し、足らざる分野は他大学で教鞭をとっている方々にもご協力をいただきました。実は全員、今年四月に新設された新潟県立大学国際地域学部に配属予定の常勤教員あるいは非常勤教員に講師をお願いしました。新潟県内の大学には、北東アジア地域の社会、歴史、文学及び生活文化など、毎日の政治経済の動向を規定する基層文化を語ることができる専門家がたくさんいらっしゃることを県民の皆様を知っていただけたことは、大きな成果であったのではないのでしょうか。また、いずれの回も大変盛況であったと伺っています。講師の方々が日頃から学生たちに語り、かつ、先端の研究成果の一端を交えながらも分かりやすくなるよう心がけてくださった結果だと思っています。私自身も第1回目の入門編で「東アジア理解への招待」をテーマに、ロシアも含む広域的な東アジア世界の具体的な国際関係の構図や社会理解の実情について論じながら、世界の中のアジアや日本との関係についても展望させていただきます。

第3回目となる今年度の国際理解講座は、「アジアをもっと知ろう!」を全体のテーマとし、新潟県の各地域でアジアの魅力を学習していただくとの狙いから、新潟市、三条市、長岡市、南魚沼市、上越市で開催すると聞いています。地元の大学等で活躍されている専門家の方々に講師をお願いしているので、より充実した講座になるものと期待しております。日々展開する表層の出来事に目を奪われることなく、国際理解の基盤知識として、更にじっくりと東アジア地域の諸相に関心をお寄せください。そして、地域理解は何より現場体験が重要です。受講内容を確認すべく、現地を

訪問することによって知識を自らのものにし、総合的な地域理解を深めていただくという趣旨から、今年度は中国東北地方への体験ツアーも企画されています。

さて、県民の皆様の期待を胸に、今春開学した新潟県立大学の国際地域学部では、国際社会コース、東アジアコース、比較文化コース、地域環境コースの4コースが設定されており、多様なカリキュラムを用意しています。国際社会コースではグローバル化が進む中で解決すべき国際的・地域的課題の本質をグローバルな視点から検討しますが、東アジアコースでは、新潟県と交流の深いロシア・中国・韓国・モンゴルの歴史や情勢、言語を深く学び、国境を越えた相互理解と交流の中核となる人材の育成や研究に力を注ぎます。

新潟県は北東アジアから世界へと続くグローバルネットワークの拠点として、国内外から期待されています。東京等の首都圏から世界や東アジアを観察するのではなく、新潟などの地域から直接、国際理解や相互理解を進めていくことが重要である時代が到来しています。東アジア地域との交流のあり方や国際的な諸課題の対応と克服策を、この国際理解講座を学習しながら、一緒に考えていきましょう。

若月 章(わかつき あきら)

新潟県三条市出身。県立新潟女子短期大学国際教養学科助教授、教授を経て、2009年4月より現職。北東アジア学会常任理事、新潟市外国籍市民懇談会座長、新潟国際ボランティアセンター理事兼運営委員など。専門は国際関係論、北東アジア地域研究。



参加無料

国際理解講座

「アジアをもっと知ろう!」



「21世紀の開かれた、世界の経済成長センター」と言われるアジア。新潟県と日本海をはさみ、歴史的にも経済的にも強い繋がりを持つロシア、中国、韓国、モンゴルの北東アジア諸国を中心に、隣国である「アジアをもっと知る」ための国際理解講座を、県内各地で全12回開催します。

講座へのお問い合わせ、お申し込みは、各地域の問い合わせ先にご連絡ください。(各会場とも定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。)

地域	日時	テーマ	講師	会場	問い合わせ先
新潟市	8/30(日) 14:00~15:30	モンゴル・ウランバートルの都市と暮らし	新潟大学 准教授 櫛谷 圭司 氏	朱鷺メッセ 203・204	(財)新潟県 国際交流協会 TEL.025-290-5650 定員:70名
	9/6(日) 14:00~15:30	ロシアの国立公園と環境保護について—極東を中心に—	新潟大学・新潟県立大学・ 新潟青陵大学 非常勤講師 中谷 昌弘 氏	朱鷺メッセ 303・304	
	9/27(日) 14:00~15:30	黒龍江と近代日本	新潟国際情報大学 准教授 小林 元裕 氏	朱鷺メッセ 203・204	
三条市	9/30(水) 19:30~21:00	中国の社会経済を深く知ろう	企業コンサルタント 新潟経済大学 客員教授 王 裕晋 氏	県央地域地場産業 振興センター リサーチコア6階 研修室1	三条市経済部 地域経営課国際係 TEL.0256-34-5511 (内線726) 定員:50名
	10/21(水) 19:30~21:00	最新ロシア事情	新潟経営大学 教授 ツェリツェフ・イワン 氏		
	11/11(水) 19:30~21:00	グローバル経済の中での 関越経済圏の活性化	新潟経営大学 学長 蝦名 保彦 氏		
長岡市	11/21(土) 14:00~15:30	白黒がはっきりしないと 困ってしまう韓国社会、 その近年の変貌	長岡大学 准教授 權 五景 氏	ながおか市民センター1階 地球広場	長岡市国際交流センター 「地球広場」 TEL.0258-39-2714 定員:100名
南魚沼市	9/4(金) 18:30~20:00	東アジアの国際関係史: アヘン戦争から太平洋戦争まで	国際大学研究所 教授 信田 智人 氏	国際大学 松下図書情報センター 3階ホール	国際大学 教務・入試事務局 TEL.025-779-1112 定員:150名
	9/11(金) 18:30~20:00	東アジアの国際関係史:戦後			
上越市	10/3(土) 13:30~15:00	現代ロシア事情 —極東ロシアを中心に—	上越教育大学大学院 准教授 下里 俊行 氏	上越市市民プラザ1階 多目的室	(社)上越国際交流協会 TEL.025-527-3615 定員:50名
	10/10(土) 13:30~15:00	日中文化の相違について —中国の最新事情—	上越教育大学大学院 教授 黎 子椰 氏	上越市市民プラザ2階 第4会議室	
	10/17(土) 13:30~15:00	韓国社会の現状 —日本との比較を中心に—	上越教育大学大学院 教授 釜田 聡 氏		

中国東北地方 体験ツアー 参加者募集!!

国際理解講座の一環として、中国東北地方の文化・歴史・経済を体感できる体験ツアーを実施します。「東北の小バリエ」とも言われるエキゾチックなハルビン市の街並みや、北方民族が建国した金王朝の遺跡、中国の大学生との交流、東北虎林園での自然との触れあい、躍進する企業の見学など、肌で感じる国際理解を是非ご体験ください。

対象

過去に当協会が主催した国際理解講座を受講された方、或いは今年度開催する国際理解講座に参加を予定されている方

期間

9月13日(日)~9月16日(水)

行き先

中国黒龍江省(ハルビン市、阿城市)

参加費

1人あたり78,000円

(1人部屋を希望される場合は89,000円)

期間中の宿泊費、食事代、施設見学

料等含む。

最少催行人数:10名

応募期限:8月5日(水)

問い合わせ先

(財)新潟県国際交流協会

TEL:025-290-5650

国際交流インストラクター事業とは？

(財)新潟県国際交流協会では、平成18年度より新潟国際情報大学と、平成19年度からは敬和学園大学、平成20年度からは県立新潟女子短期大学も加わり、現在はこの3大学と連携して国際交流インストラクター事業を実施しています。

今回は、中心となってこの事業を推進している新潟国際情報大学の長坂先生にお話を伺いました。

—国際交流インストラクター事業を始められたきっかけを教えてください。

平成17年に、新潟県国際交流協会と新潟国際情報大学で「教育と地域の国際化が結び付くような試みができないか」と、話し合ったことが始まりです。その際に、ある写真展のガイドを学生が

行うという企画を皮切りに、国際理解セミナーという形で、小中学生に国際理解教育を行うようになりました。そうした取り組みは、学生や子どもたちの反応も良く、好評でした。そこでこれを『国際交流インストラクター

事業』として拡大し、小中学校・高校へインストラクターである学生を派遣するという展開を考えたのです。本格的な小中学校への派遣は、平成18年から始まりました。

国際交流インストラクター事業は、大学で訓練した学生を、新潟県国際交流協会にインストラクターとして認証してもらい、小中学校・高校へ派遣するというものです。この活動から、大学生は教える経験を通して勉学への意欲を高めています。小中学生・高校生にとっては、国際社会についての意識や知識を、ワークショップ(以下WS)を通して身に付けるきっかけになっています。

—本事業が取り組む「国際理解WS」の内容を教えてください。

国際理解WSですから、世界の多様性とか、世界の不平等の仕組みなどがテーマとなります。また、この事業には一方的な知識の伝達とは異なるWSという手法を採用しているという特徴もあります。WSでは、学生がファシリテーターと呼ばれる案内人となり、ある問題についての知識を共有しながら、自分の意見やものの見方を作っていきます。また、小学生と高校生で扱うテーマが同じ場合は、高校生に対しては考えさせる内容にして、小学生には楽しい

部分を増やすといった形で、内容も工夫していきます。

高校へ派遣した際の反応を見ると、先生ではなく先輩が来たということで、興味を持ってきている印象を持ちました。そういう意味で、年齢が近い学生が行くという、国際交流インストラクター事業の利点が生きている部分はあると思います。

—今後の課題と目標を教えてください。

国際交流インストラクター事業の仕組みも確立されてきましたし、事務的なノウハウも蓄積されてきました。さらに、学生が教えていくWSの技法も蓄積されつつあります。そうした中で、今後も学生たちにはもっと貪欲に知識を身に付けてもらい、その知識に奥行きを持った形でWSに臨んでもらいたいと考えています。優しく理解しやすいWSを作っていくことは難しいことです。しかし完成度を高めていけたら、学生にとっても、小中学生・高校生にとっても、お互いに高めあうような、より意見が深まるような、そんなWSができると思います。

—国際理解WSを通して、実施校の生徒に何を学んでもらいたいですか。

世界の文化、習慣の多様性を学ぶ中で、自分の生き方や生活というのが、数ある可能性の中の一つだということの気づき。そうしたことから自分の生活というものを、ちょっと違った視点で見ることができるようになれば、私たちはうれしく思います。また、グローバル化の中で、世界中の人とモノのつながりが以前よりも緊密化しているの、地球の中の自分といった形で物事を見る視点を養ってもらいたいですね。WSはそのきっかけの一つとして捉えてほしいと思います。



長坂 格(ながさか いたる)
愛知県生まれ、国際基督教大学教養学部卒業。
現在、新潟国際情報大学情報文化学部准教授。博士(文学)。専門は文化人類学、移民研究。

《国際理解ワークショップを受けてみませんか？》

国際交流インストラクターの研修を受けた県内大学の大学生のグループが、各学校に出向き、国際理解ワークショップを行います。

対象：小学生、中学生、高校生

募集期間：平成21年8月24日(月)まで

実施期間：平日/前期>平成21年9月1日(火)~9月30日(水) 後期>平成22年2月1日(月)~3月5日(金)
土日・祝日/平成21年9月5日(土)~平成22年2月28日(日)

時間：90分程度(ご相談に応じます) 例:アイスブレイク10~20分 ワークショップ60分 アンケート記入・質問など10分

費用：インストラクターの派遣費用は無料。

申込み方法：実施要項と申込み用紙を、(財)新潟県国際交流協会HP「県協会ニュース」からダウンロードし、FAXかE-Mailで(財)新潟県国際交流協会(TEL:025-290-5650 FAX:025-249-8122 E-Mail:nia21c@niigata-ia.or.jp)までお申し込み下さい。

ワークショップ実施日の2週間前までに、担当学生が事前の打ち合わせを行います。ワークショップの詳細については下記をご参照ください。
新潟国際情報大学国際交流インストラクター事業HP「わたしたちのワークショップについて」<http://www.nuis.ac.jp/iuip/work.html>



「百聞は一見にしかず」

新潟県立三条高等学校2年 知野 里江子

私は、昨年12月に約一週間、「日本青少年訪中団第二陣」の日本高校生代表団500名の一員として中国に行ってきました。これは、日本の常任理事国入りなどをめぐって、中国で反日デモが暴発したことから、両国青少年の相互理解を目的として、日中両国政府が行っている事業です。このような経緯や「毒入りギョーザ事件」報道等を耳にして、中国に行く前の私はとても不安でした。けれど、中国に着いてみると「さほど日本と変わらないな」と思いました。初めての海外で緊張していましたが、なんだかホッとしました。最初は北京の故宮や五輪スタジアムなど有名スポットの見学で、中国ならではのスケールの大きさに圧倒されるとともに、教科書だけでは分からない歴史の重み、本物の歴史的建造物の荘厳さというものを感しました。

そして、これら以上に印象に残ったのは、江西省南昌市でのホームステイでした。緊張しきっている私を、ホストファミリーは温かく迎えてくれました。南昌の有名な噴水を見せてくれたり、私が下手な英語とジェスチャーで話すのを笑顔で聞いてくれたりと、本当の子供のように接してくれたのです。彼らは中国語で会話しているのに、なぜか私にも「分かる」気がしました。あっと言う間に帰る時間になり、別れる時は本当に悲しかったです。

帰国して、私は自分の中国に対するイメージが変わっていることに気づきました。今までの自分は、ただ報道を鵜呑みにしているだけでした。とにかく経験することが大切なんだと思います。「百聞は一見にしかず」なのです。自分自身の目で確かめ、判断して欲しいと思います。



活動報告

>> 中国スタディツアー報告

平成20年12月13日(土)に朱鷺メッセで開催した「平成20年度プレゼンテーションコンテスト」において、最優秀賞を受賞した「新潟市立上山中学校」と「SRG(新潟市立万代高等学校)」を、平成21年3月27日(金)から30日(月)まで、中国黒龍江省ハルビン市へのスタディツアーに派遣しました。

市内見学や太極拳体験、ハルビン第三中学校での交流活動、ハルビン市内と農村でのホームビジットなどを通じて、実際に肌で異文化を体験し、国際理解・国際交流をより一層深めることができた、思い出深いスタディツアーになりました。

NIAインフォメーション

～NIAの活動報告とお知らせ～

参加者の声(感想文一部抜粋)

このスタディツアーで中国の良い所、知らなかった所、たくさんの面を見て、知ることができました。ホームビジットで訪問した家族もお店の人も、言葉だけでなく違うところで通じ合えて、たくさんのすばらしい人々と出会えました。人の情報だけではなく、自分の目で見て体験してきたことが本当の真実だ、ということにも気づくことができたので、自分も大きく成長できた旅行になって良かったです。



今年度も「平成21年度プレゼンテーションコンテスト」が開催されます。応募方法は下段をご覧ください。

お知らせ
1

平成21年度プレゼンテーションコンテストの参加チームを募集します!

学校での教科、「総合的な学習の時間」、クラブ活動、又は地域での活動などにおける、国際理解をテーマにした取組みや学習の成果を発表する「プレゼンテーションコンテスト」に参加する中学生・高校生チームを募集します。

中学生部門及び高校生部門の最優秀賞受賞チームは、副賞として海外スタディツアーに派遣します。(今年度はロシア極東地域を予定しています。)

日時:平成21年12月19日(土)
10:00～17:00(予定)

場所:朱鷺メッセ

募集部門:中学生部門・高校生部門

各部門最大10チーム

1チーム 生徒3名以上+指導者(成人)1名以上

出場を希望するチームは、所定の応募用紙を平成21年9月30日(水)必着で(財)新潟県国際交流協会まで送付してください。募集要項・応募用紙は当協会HP「県協会ニュース」からダウンロードできます。

お知らせ
2

プラザ講座で世界を学ぼう!

国際協力や国際交流について学ぶことのできる「プラザ講座」を、希望する学校等からの申込みにより実施しています。開発途上国、地域での支援活動などについて学ぶ「国際協力コース」と、海外文化を学ぶ「国際交流コース」からお選びください。

対象:小学生、中学生、高校生、大学生
募集期間:通年

実施期間:各月1～2回(先着順)

場所:国際交流プラザ(朱鷺メッセ2F)

時間:60～120分程度
(ご相談に応じます)

費用:無料
ただし、国際交流プラザまでの交通費は参加者負担。

講師は1講座2名までとなります。実施希望日の1か月前までに、当協会HPトップ(プラザ講座のご案内)の申請書様式にてお申込み下さい。



お知らせ
3

留学生を国際理解教育の講師に迎えますか? (留学生講師活用事業)

新潟県内の大学等には、60カ国以上の国から日本のことを学びに来ている学生が約1,200人います。外国の文化や事情を知るだけでなく、将来を見据えて勉学に励む彼らから学ぶことはたくさんあります。

彼らを講師として、出身国の様子を聞いたり、留学生の視点から見た日本について話し合ったりする、国際理解の講座や授業をしてみませんか。

対象:小学校、中学校、高等学校、及び市町村
募集期間:平成22年2月まで

1校(1団体)1申請とし、予算に達し次第、募集を終了します。

内容:申込みをした学校等が授業を企画・作成し、講師の手配をします。
費用:1件あたり1万円を上限とし、講師の謝金・交通費、授業等で使用する資料代を助成します。

助成を希望される団体は募集要項をご覧の上、事業実施予定の1か月前に県協会まで申請書類をご提出下さい。募集要項・申請書類は当協会HP「県協会ニュース」をご覧ください。

当協会では国際関係の取り組みをしている高校、大学の情報、国際交流団体のイベント情報を募集しています。「学校の取り組みを紹介して欲しい」、「イベント告知をしたい」などの情報をお寄せ下さい。内容を確認の上、広報誌紙面やメルマガ等でお知らせします。